

OXIDE

株式会社オキサイド

2027年2月期 第2四半期

決算補足説明資料

2026年10月15日

東証グロース:6521

豊かな未来を 光の技術で実現する

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

上級執行役員CFOの竹内でございます。

本日はお忙しい中、2027年2月期第2四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日は、決算補足説明資料に基づいて、ご説明させていただきます。

Agenda

OXIDE

- 01.** 2027年2月期 第2四半期決算
- 02.** 事業別業績 [半導体・ヘルスケア・新領域]
- 03.** 2027年2月期 通期連結業績予想の修正および中期経営目標に向けた進捗

こちらが本日のアジェンダです。

第2四半期決算、事業別業績、そして2027年2月期の通期業績予想の修正と中期経営目標に向けた進捗の三つのパートに分けてご説明いたします。

01. 2027年2月期 第2四半期決算

2027年2月期 上半期ハイライト

OXIDE

売上高

営業利益

営業利益率

EBITDAマージン

49億35百万円

6億41百万円

13.0%

19.6%

前年同期比

前年同期比

前年同期比

前年同期比

+7億84百万円

+8億30百万円

+17.6%

+13.3%

第2四半期決算サマリー

1

主要4指標すべてが前年同期比で大幅に伸長

2

半導体事業の成長が増収・増益を牽引

3

通期連結業績予想を上方修正

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

3

まずはハイライトです。本日お伝えしたいことは、こちらの3点に集約されます。

1点目、2027年2月期上半期は、売上高、営業利益、営業利益率、EBITDAマージンの主要4指標すべてが、前年から大きく伸長しました。

売上高は前年同期比で7億84百万円の増収、営業利益は8億30百万円の増益となり、収益性も飛躍的に高まっています。

2点目、その増収・増益を牽引したのは、半導体事業の成長です。

3点目、この上半期実績と下半期の見通しを踏まえ、通期連結業績予想を上方修正いたします。それでは、上半期実績、事業別業績、通期業績予想の修正の順にご説明いたします。

01. 2027年2月期 第2四半期決算

2027年2月期 上半期実績

OXIDE

■売上高・営業利益ともに予想を上回りました。

■営業利益は、予想対比3億8,100万円増益の6億4,100万円となりました。主に売上総利益率の改善により、収益性の向上が堅調に進んでいます。

(単位:百万円、%)

項目	27年2月期 1Q※1			27年2月期 2Q			27年2月期 上半期			(参考) 26年2月期 上半期	前年同期比	27年2月期 通期予想
	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比			
売上高	2,251	2,192	▲ 59	2,409	2,743	+ 334	4,659	4,935	+ 275	4,151	+ 784	9,828
営業利益	181	199	+ 17	78	442	+ 363	259	641	+ 381	▲ 189	+ 830	933
営業利益率	8.0%	9.1%	+1.1%	3.2%	16.1%	+12.9%	5.6%	13.0%	+7.4%	▲4.6%	+ 17.6%	9.5%
研究開発費	299	254	▲ 44	241	254	+ 13	540	509	▲ 31	706	▲ 197	1,042
EBITDA※2	352	364	+ 12	262	604	+ 342	613	969	+ 355	263	+ 705	1,681
EBITDAマージン※3	15.6%	16.6%	+1.0%	10.9%	22.0%	+11.2%	13.2%	19.6%	+6.4%	6.3%	+ 13.3%	17.1%

※1 「27年2月期」は「2026年3月～2027年2月」の会計年度を指します。

※2 EBITDA:営業利益に償却費(減価償却費・のれん償却等を含む)を加えた数値

※3 EBITDAマージン:EBITDA÷売上高

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

4

2027年2月期上半期の実績についてご説明いたします。

売上高・営業利益ともに予想を上回りました。

売上高は、予想対比2億7,500万円増収の49億3,500万円となりました。

これに対し営業利益は、予想対比3億8,100万円増益の6億4,100万円となり、売上の上振れ幅を利益の上振れ幅が上回っています。主な要因は売上総利益率の改善であり、収益性の向上が堅調に進んでいます。

研究開発費は予想対比94%程度の支出となりましたが、計画に沿って研究開発を進めており、中長期の成長に向けた投資は引き続き着実に継続しております。

半導体 | 売上高

OXIDE

■ 半導体事業の上半期売上高は、予想対比3億3,800万円増収の32億5,900万円となりました。

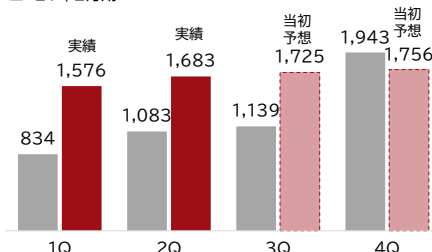
■ SEMIの調査では、2026年の半導体製造装置(WFE)市場は前年比23.2%成長すると予測されています。※
こうした市場拡大を背景に、当社が高いシェアを有する単結晶・レーザ製品の出荷が増加し、前年同期比70%の増収となりました。

(単位:百万円)

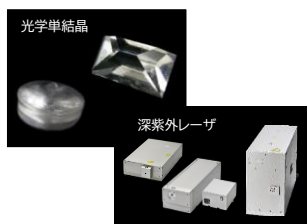
項目	27年2月期 1Q			27年2月期 2Q			27年2月期 上半期			(参考)	前年同期比	27年2月期 通期予想
	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	26年2月期 上半期		
売上高	1,282	1,576	+ 294	1,639	1,683	+ 43	2,921	3,259	+ 338	1,918	+ 1,341	6,402

■ 26年2月期
■ 27年2月期

売上高推移 (単位:百万円)



半導体ウエハ欠陥検査装置に用いる当社の製品群



半導体ウエハ欠陥検査装置



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.
※ 出典: SEMI Mid-Year Total Semiconductor Equipment Forecast - OEM Perspective
<https://www.semi.org/jp/news-resources/press/20260715>

5

続いて事業別業績についてご説明いたします。まずは半導体事業です。

半導体事業の上半期売上高は、予想対比3億3,800万円増収の32億5,900万円となりました。

SEMIの調査では、2026年の半導体製造装置、いわゆるWFE市場は、前年比23.2%成長すると予測されています。

こうした市場拡大を背景に、当社が高いシェアを有する単結晶・レーザ製品の出荷が増加し、前年同期比70%の増収となりました。

市場の成長を上回るペースで事業を伸ばしていることは、当社の製品が半導体サプライチェーンの中で確かなポジションを築いていることの表れだと考えております。

半導体 | 半導体後工程微細加工向け深紫外フェムト秒レーザー

OXIDE

- 既存事業の拡大に加え、半導体後工程向け微細加工という新たな成長分野での事業開拓を加速しています。
- 当社の波長変換技術とFluence社のフェムト秒レーザー技術を融合し、波長258nm 高出力、短パルス、高ビーム品質な深紫外フェムト秒レーザーを開発しました。(2026年8月18日開示)
- 今後は、CoWoSやCoPoSなどの先端半導体パッケージ、光電融合CPO、ディスプレイなど、幅広い精密微細加工用途への製品展開を進めてまいります。

OXIDEの波長変換技術 x Fluence社フェムト秒レーザー = 深紫外フェムト秒レーザー製品化へ

フェムト秒DUVレーザーの必要性

市場ニーズ	先端半導体パッケージや光電融合におけるCPO・PICで、サブミクロン精度の微細加工ニーズが拡大
なぜフェムト秒×深紫外か	フェムト秒:熱が伝わる前に加工し、熱影響を最小化 深紫外:微小スポット×高光子エネルギーで高精度加工



先端半導体パッケージ(CoWoS・CoPoS)、光電融合CPO、ディスプレイなど幅広い精密微細加工

半導体パッケージ

ガラス基板

SiC・サファイア

Micro LED

有機材料

当社は半導体市場において、既存事業の拡大に加え、新たな分野の開拓を加速しています。その一つが、先端半導体パッケージやCPOなど、サブミクロン精度の微細加工ニーズが急速に拡大している半導体後工程分野です。

この成長機会を捉えるため、当社が半導体ウエハ欠陥検査向けのレーザーで培ってきたコア技術である深紫外の波長変換技術と、Fluence社のフェムト秒レーザー技術を融合し、深紫外フェムト秒レーザーを開発しました。

今後は、先端半導体パッケージ、光電融合CPO、ディスプレイなど、幅広い精密微細加工の用途へ展開してまいります。

半導体 | 香山晋氏を経営戦略アドバイザーに招聘

OXIDE

- 既存事業の拡大と新規分野の開拓を一段と加速するため、香山晋氏を経営戦略アドバイザーに招聘しました。(2026年9月8日開示)
- 半導体産業における豊富な経営経験とグローバルな知見を、中長期の成長戦略に活かしてまいります。

香山氏の知見で加速する半導体事業の成長

中長期的な経営戦略の立案と実行

事業ポートフォリオの拡充

グローバル市場への展開



左: 当社代表取締役CEO 古川 右: 香山晋氏

香山晋氏のご経歴

- ・ 株式会社東芝で長年にわたり半導体事業を牽引
- ・ 東芝セラミックス(現・クアーズテック合同会社)の代表取締役社長としてMBOによる独立と成長を主導
- ・ 2020年、半導体分野最高峰の栄誉の一つ「IEEE Robert N. Noyce Medal」を受賞
- ・ 現在はK. Associates代表として国内外の半導体関連企業に経営助言

既存事業の拡大と新規分野の開拓を一段と加速するため、先日開示しましたとおり、香山晋氏を経営戦略アドバイザーにお迎えしました。

香山氏は、株式会社東芝で長年にわたり半導体事業を牽引され、その後、東芝セラミックスの代表取締役社長としてMBOによる独立と成長を主導されました。

2020年には、半導体分野で最高峰の栄誉の一つであるIEEE Robert N. Noyce Medalを受賞されています。

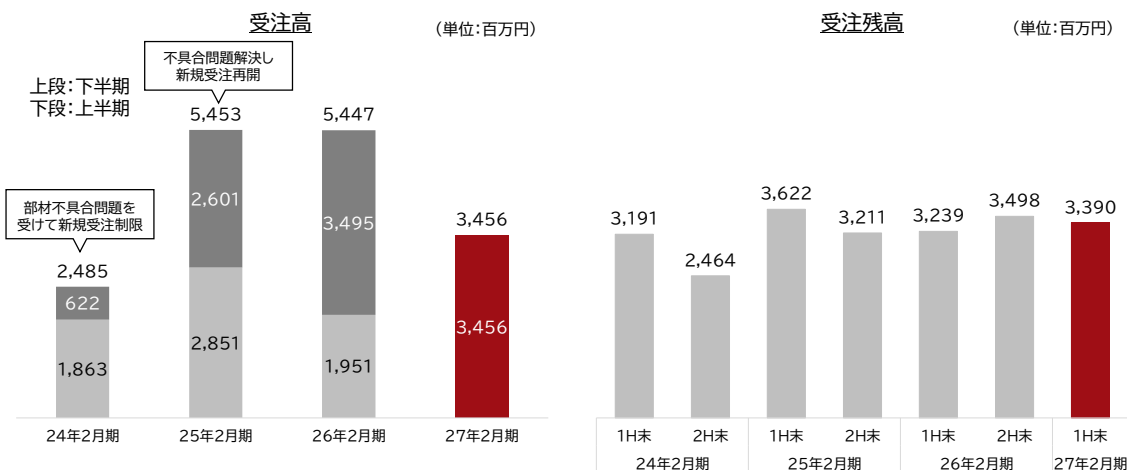
今後は、半導体産業で豊富な経営実績と世界的ネットワークを有する同氏の知見を、中長期の成長戦略に活かしてまいります。

半導体 | 受注高・受注残高

OXIDE

■ 2027年2月期上半期の受注高は、上半期として過去最高の34億5,600万円となりました。

■ 第2四半期末時点での受注残高は、33億9,000万円となりました。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

8

半導体事業の受注高・受注残高です。

2027年2月期上半期の受注高は、上半期としては過去最高の34億5,600万円となりました。前年同期の19億5,100万円から大きく増加しています。

第2四半期末時点での受注残高は、33億9,000万円となりました。

第3四半期に入った9月にも大型の受注をいただいております。受注の傾向は引き続き堅調です。

02.事業別業績

ヘルスケア | 売上高

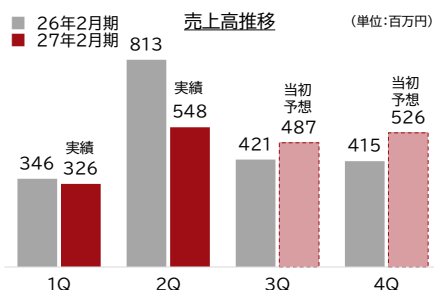
OXIDE

■ヘルスケア事業の上半期売上高は、予想対比3,600万円増収の8億7,400万円となりました。

■主要原材料の調達環境悪化と価格高騰を受け、主要顧客と取引条件の見直し協議を継続しています。

(単位:百万円)

項目	27年2月期 1Q			27年2月期 2Q			27年2月期 上半期			(参考)	前年同期比	27年2月期 通期予想
	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	26年2月期 上半期		
売上高	428	326	▲ 101	410	548	+ 138	837	874	+ 36	1,160	▲ 285	1,851



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

9

次に、ヘルスケア事業です。ヘルスケア事業の上半期売上高は、予想対比3,600万円増収の8億7,400万円となりました。

第1四半期に期ずれとなった出荷分が第2四半期の売上に寄与し、上半期としては予想を上回る着地となりました。

一方で、主要原材料の調達環境の悪化と価格高騰を受け、主要顧客と取引条件の見直しについて協議を継続しております。

下半期の見通しについては、後ほど通期業績予想の修正の中で、改めてご説明いたします。

02.事業別業績

新領域 | 売上高

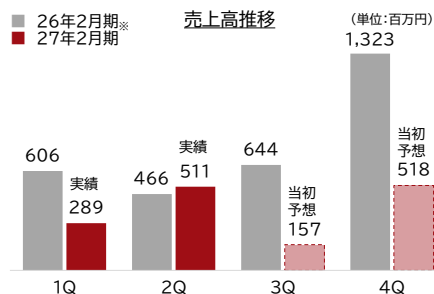
OXIDE

■ 新領域事業の上半期売上高は、予想対比9,900万円減収の8億円となりました。

■ データセンター向けファラデー回転子は概ね計画どおりに推移した一方、その他分野の一部案件が下半期へ期ずれとなりました。

(単位:百万円)

項目	27年2月期 1Q			27年2月期 2Q			27年2月期 上半期			(参考)	前年同期比	27年2月期 通期予想
	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	予想	実績	予想比	26年2月期 上半期		
売上高	541	289	▲ 251	359	511	+ 152	900	800	▲ 99	1,072	▲ 271	1,575



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※ 26年2月期は海外子会社含む

10

新領域事業についてご説明いたします。

新領域事業の上半期売上高は、予想対比9,900万円減収の8億円となりました。

データセンター向けファラデー回転子は概ね計画どおりに推移した一方、その他分野の一部案件が下半期へ期ずれとなりました。

2027年2月期通期業績予想の修正 および中期経営目標に向けた進捗

ここからは、2027年2月期の通期業績予想の修正と、中期経営目標に向けた進捗についてご説明いたします。

2027年2月期 通期予想の修正

OXIDE

- 半導体事業では単結晶・レーザ製品、新領域事業ではデータセンター向けファラデー回転子の出荷増加により、両事業の売上高予想を上方修正します。
- 一方、ヘルスケア事業では、主要原材料の調達環境悪化と価格上昇を受け、主要顧客と取引条件の見直しに向けた協議を継続しています。下半期の業績予想については、こうした状況を踏まえ、現時点で受注の確度が高い案件をベースに見直しました。引き続き収益性を重視し、適正な取引条件の確保に努めてまいります。
- その結果、全社の売上高は当初予想比4億9,500万円の増収の103億2,300万円、営業利益は当初予想比4億3,400万円の増益13億6,700万円へ上方修正いたします。
(単位:百万円、%)

項目	27年2月期										
	1Q		2Q		3Q		4Q		通期		
	予想	実績	予想	実績	予想	修正予想	予想	修正予想	当初予想	修正予想	増減
売上高	2,251	2,192	2,409	2,743	2,369	2,598	2,800	2,790	9,828	10,323	+ 495
半導体	1,282	1,576	1,639	1,683	1,725	1,820	1,756	2,160	6,402	7,241	+ 838
ヘルスケア	428	326	410	548	487	285	526	59	1,851	1,219	▲ 632
新領域	541	289	359	511	157	493	518	570	1,575	1,864	+ 288
営業利益	181	199	78	442	247	271	427	455	933	1,367	+ 434
営業利益率	8.0%	9.1%	3.2%	16.1%	10.4%	10.4%	15.3%	16.3%	9.5%	13.2%	+ 3.7%
EBITDA	352	364	262	604	439	461	628	647	1,681	2,076	+ 395
EBITDAマージン	15.6%	16.6%	10.9%	22.0%	18.5%	17.7%	22.4%	23.2%	17.1%	20.1%	+ 3.0%

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

12

2027年2月期の通期業績予想の修正についてご説明いたします。

半導体事業では単結晶・レーザ製品、新領域事業ではデータセンター向けファラデー回転子の出荷増加を見込み、両事業の売上高予想を上方修正いたします。半導体事業は当初予想比8億3,800万円、新領域事業は2億8,800万円の増収です。

一方、ヘルスケア事業では、主要原材料の調達環境悪化と価格高騰を受け、取引条件の見直しについて主要顧客との協議を継続しております。このため、現時点で確度の高い案件をベースに下半期予想を見直しました。引き続き収益性を重視し、適正な取引条件の確保に取り組んでまいります。

その結果、全社の売上高は当初予想比4億9,500万円増収の103億2,300万円、営業利益は当初予想比4億3,400万円増益の13億6,700万円へ上方修正いたします。

営業利益率は当初予想の9.5%から13.2%へ、EBITDAマージンは17.1%から20.1%へ高まる見込みです。

今後もさらに収益性を高め、創出したキャッシュを事業成長に向けた投資に振り向けてまいります。

中期経営目標に向けた進捗

■ 2027年2月期の修正予想は、営業利益率13.2%・EBITDAマージン20.1%です。2028年2月期の中期経営目標（12%・22%）のうち、営業利益率は1年前倒しで達成する見込みです。

■ 下半期の進捗を見極めた上で、中期経営目標の見直しを検討してまいります。

	27年2月期 当初予想	27年2月期 修正予想		中期経営目標 (26年4月開示)	
				28年2月期	29年2月期
全社売上高	98億円	103億円	当初予想比 + 約5億円の上方修正 半導体・新領域の出荷増が牽引	—	130億円
営業利益率	9.5%	13.2%	28年2月期目標を1年前倒し	12%	14%
EBITDA マージン	17.1%	20.1%	28年2月期目標も射程圏内	22%	23%

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

13

続いて、中期経営目標に向けた進捗についてご説明いたします。

当社は、各四半期を切り離された一つの期間としてではなく、中期経営目標の達成に向けたマイルストーンとして捉えております。

2026年4月に開示した中期経営目標では、2028年2月期に営業利益率12%、EBITDAマージン22%、2029年2月期に売上高130億円、営業利益率14%、EBITDAマージン23%を掲げております。

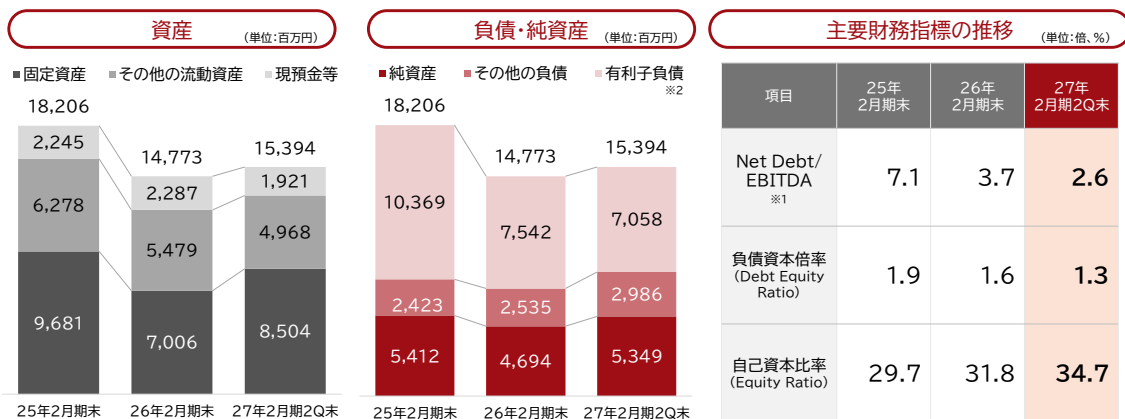
このうち営業利益率は、2028年2月期の目標を1年前倒しで達成する見込みです。EBITDAマージンについても、2028年2月期の目標が射程圏内に入っております。

中期経営目標につきましては、下半期の進捗をしっかりと見極めた上で、その見直しを検討してまいります。

連結貸借対照表の推移

OXIDE

- 売上・利益の拡大と並行して、財務体質の改善を着実に進めています。
- 重要指標と位置付けるNet Debt/EBITDAは、前期末の3.7倍から第2四半期末は2.6倍へ改善しました。※1
- 自己資本比率も34.7%(前期末比+2.9%)に上昇し、財務健全性が高まっています。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

※1 2027年2月期2Q末は、上半期EBITDA実績(969百万円)を2倍にして適用。それ以外は通期EBITDA実績を適用
※2 有利子負債:社債+借入金(リース債務除く)

14

続いて、連結貸借対照表の推移です。

ここでお伝えしたいのは、売上・利益の拡大と並行して、財務体質の改善も着実に進んでいるという点です。

当社が重要指標と位置付けるNet Debt/EBITDAは、前期末の3.7倍から、第2四半期末には2.6倍まで改善しました。

2025年2月期末の7.1倍と比べると、この1年半で大きく改善しています。

負債資本倍率も1.3倍と前期末から0.3ポイント低下し、自己資本比率は34.7%と、前期末比2.9ポイント上昇しました。

利益成長によるキャッシュ創出力と、財務健全性は着実に高まっています。

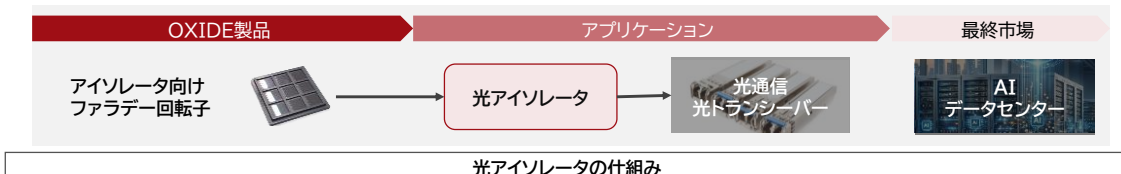
03. 2027年2月期 通期連結業績予想の修正および中期経営目標に向けた進捗

設備投資計画 データセンター向けファラデー回転子

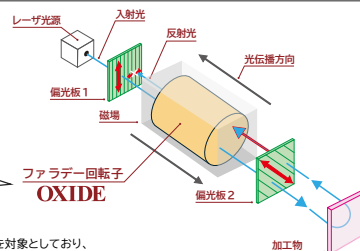
OXIDE

- 生成AIの普及によるデータセンター向け光通信市場の拡大を成長機会と捉え、ファラデー回転子の生産能力増強に向けて14億5,500万円の設備投資を決定しました。(2026年8月19日開示)^{※1}
- 2027年2月期下半期中に稼働を開始し、拡大する需要に応える供給体制を構築します。

データセンターサプライチェーンにおけるファラデー回転子



光アイソレータの仕組み



※1 2027年2月期 第2四半期末(2026年8月末)までに開示した設備投資を対象としており、2026年10月14日開示の追加設備投資は含んでいません。

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

15

最後に、設備投資計画についてご説明します。

本年8月19日に開示のとおり、生成AIの普及によるデータセンター向け光通信市場の拡大を成長機会と捉え、ファラデー回転子の生産能力増強に向けて、14億5,500万円の設備投資を決定しました。

なお、本資料の14億5,500万円は本年8月末までに開示した設備投資を対象としております。こちらに加えて、10月14日の開示のとおり、同じくファラデー回転子の生産能力増強に向けて、8億4,100万円の追加設備投資を決定しました。

2027年2月期下半期中に稼働を開始し、拡大する需要に応える供給体制を構築します。

ファラデー回転子は、光トランシーバーに搭載される光アイソレータの中核部品であり、当社が長年培ってきた単結晶育成技術を活かした成長領域です。

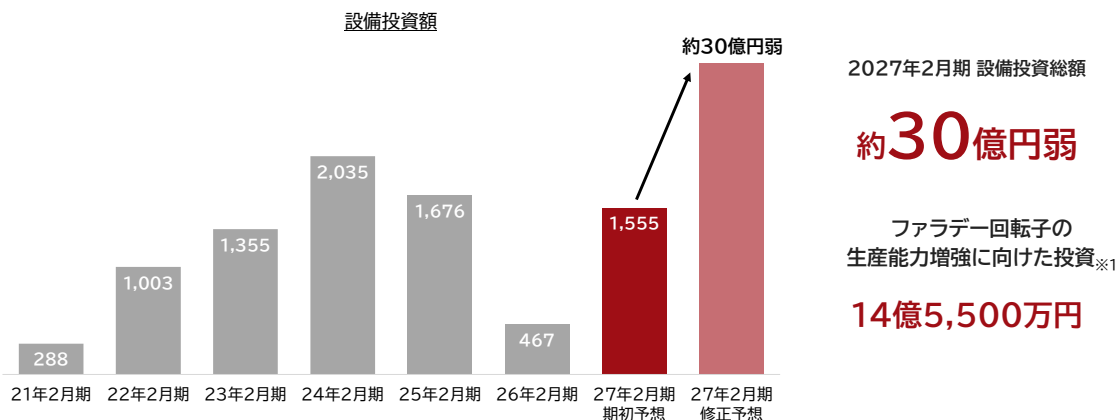
本投資により、来期以降の生産能力が大幅に増加します。

03. 2027年2月期 通期連結業績予想の修正および中期経営目標に向けた進捗

設備投資計画

OXIDE

- ファラデー回転子の生産能力増強に向けた設備投資14億5,500万円は、大部分が期初計画に対する追加投資分です。※1
- 期初計画15億5,500万円と合わせ、2027年2月期の設備投資総額は約30億円弱を見込みます。



※1 2027年2月期 第2四半期末(2026年8月末)までに開示した設備投資を対象としており、
2026年10月14日開示の追加設備投資は含んでいません。

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

16

ファラデー回転子の生産能力増強に向けた設備投資14億5,500万円は、その大部分が期初計画に対する追加投資分です。

期初計画の15億5,500万円と合わせ、2027年2月期の設備投資総額は約30億円弱を見込んでいます。

なお、この約30億円弱には、先ほどご説明した10月14日に開示した8億4,100万円の追加設備投資は含んでおりません。

財務規律を保ちながら、需要の拡大に先んじて生産能力を積み増すことで、次の成長ステージに向けた基盤をしっかりと築いてまいります。

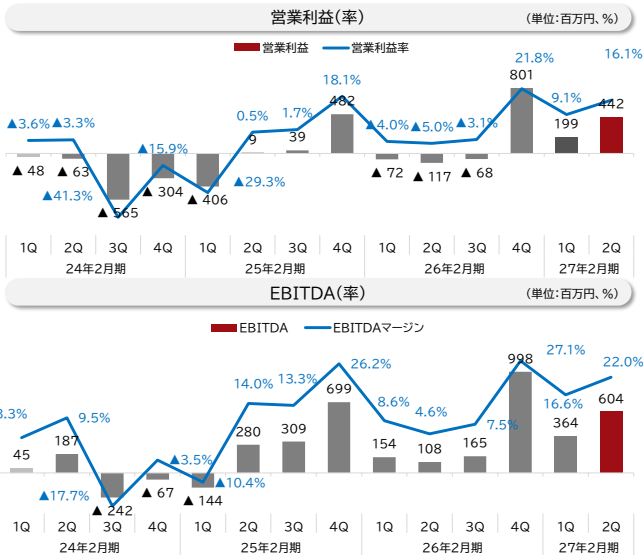
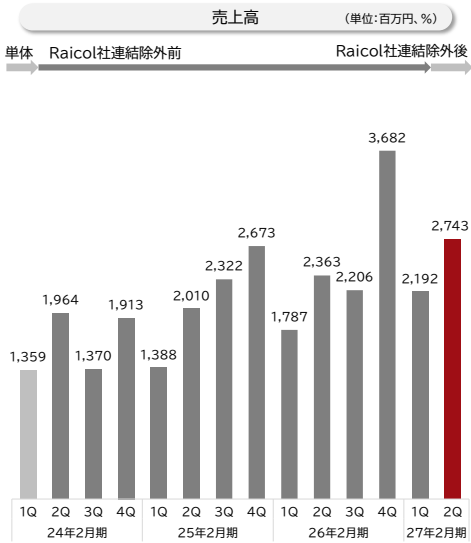
最後に、本日のポイントを改めて申し上げます。上半期は、半導体事業の成長を牽引役に、主要4指標すべてが前年から大きく伸長しました。成長の量だけでなく、質が伴った半期となりました。これを踏まえて通期業績予想を上方修正しました。財務規律の維持と成長投資を着実に進め、中期経営目標の実現に向けて取り組んでまいります。

私からのご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

Appendix

財務トレンド

OXIDE



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

OXIDE

ディスクレイマー

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の想定及び所信に基づく見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。

実際の業績に影響を与えるリスクや経済動向、業界需要などの不確定要因を含んでいます。

当社の見込みと実際の業績は異なる場合があります。ご了承ください。

本資料に記載された金額は表示単位未満を切り捨て処理、比率は表示単位未満を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

豊かな未来を光の技術で実現する

<https://www.opt-oxide.com>